

会務運営に当たっての心構え

井上真

同窓会の使命は、今さら申し上げるまでもありませんが、会員相互の親睦と福祉の増進を図り、母校の発展に寄与することであり、母校あつての同窓会であり、母校の発展はそく同窓会の発展に通ずるものであります。従つて母校との連繫をなお一層緊密にし一体となつて共存共栄の実を挙げなければなりません。東歯大は私立大学であります。血闘先生の建学の昔を忍べば同窓立大学であり、あの建物は同窓の共有財産であるといつても過言ではありません。共有財産である校舎が陳腐化して使用に堪えなくなれば吾等同窓の手に依つて建て直さなければなりません。母校を愛する八千の同窓はその位の覚悟がなくてはなりません。

私は過去三年間福島会長先生のもとで副会長として微力を尽して参りました。従つて残任期間は福島構想を踏襲して既に敷かれた路線の上に多少色を塗り変えた列車を走らせてみたいと思つています。

第一に医政問題に就て。政治即生活、生活即政治、吾が歯科界に於てもまた然りであります。全国四十七都道府県に於て東歯出身の会長は何人であるか、全国八十五名の日歯代議員中東歯出身は何人あるか、誠に寥寥たるものであります。爾来吾が同窓会に於ては医政は医政の好きな人に委せて置けろというふうな風潮が流れていて、高雅なる学風千古に徹する母校としては余りにも願ひなかつた傾向でありました。医政の面に於ては既に三流四流といわれても致し方はありません。私は一介の開業医であり保険医でもありません。私は声を大にして同窓諸兄に医政意欲の高揚を訴えたいのであります。

第二に同窓子弟の入学問題であります。同窓の歯科医業を継承する子弟を母校に入学させたいという願ひは大多数の同窓の要望される所と思つています。然し乍ら収容人数には制限があります。最近の例をみましても同窓子弟だけでも既に人員の倍數にもなります。斯く考へて参りますとどうしても他に第二歯学部とか姉妹校とかいったものを新しく設立するより外致し方がありません。私共執行部は大方の同窓のご要望に応へることが私共の責任であると信じます。この問題に關しましては学校側と真剣に検討して見たいと思つています。

第三に参議員選挙であります。私共は今第三回目の訓練に直面してあります。是れは大学も同窓会も父兄会もおおよそ水道橋に籍のあるものにとりましては至上命令であると思つています。この点に就きましては齊藤静三副会長を中心として一致団結目的達成に向つて邁進しなければなりません。

最後に福島先生時代からの懸案であります会員の更生福祉の増進であります。収益事業の一部保険部門を同窓会に移譲され今後これに更に創意と工夫をこらし会員にプラスをもたらす様に努力し度いと思つています。私は以上の様な点を心に描き会務の運営に當る決心でございます。

お知らせ

○ 六月講演会

日時 六月二十日(日) 午後一時—四時
場所 母校 第四教室
演題 歯科と公害

講師 上田喜一教授

歯科で使用している材料には現在公害として話題になつて、カドミウム、水銀などの重金属類が多くある。上田教授は本学の衛生学教室の主任で、公害問題ではしばしばテレビに登場する世界的権威である。二月には日米科学協力研究事業の一環として実施された重金属による環境汚染の人体に対する影響セミナーに日本側代表として出席されるなど公害問題で活躍されている。六月には我々の身近な公害問題を取り上げてお話しいただくことになっている。多数の先生方の御来聴をお待ちいたします。

○ 新らしい企画「金曜セミナー」 会費無料

—— 平日の夕刻より講演会 ——

新らしい試みとして会員の要望もあるので平日の夕刻より講演会を開催することにしました。反響次第では地方の皆様にもお役にたつような企画に成長させたいと思つています。

▽第一回 日時五月二十八日(金) 午後七時—九時 母校教室
演題 「海外研修会に参加する方々のために」

講師 羽賀通夫教授

主としてアメリカにおける研修会のあり方と最近のテーマの傾向について、外遊中の体験にもとづいて、日本の現状を対比してお話しできます。—— 先生方の参加を期待します ——

○ 夏期講習会など本年度同窓会学術事業計画きまる

三頁参照

○ 第一八四回東京歯科大学学会

日時 六月十九日(土) 午後一時—五時
場所 母校 教室

鹿島俊雄後援会

会員募集は毎日忘れずに!!



一般に、選挙という
と、なんとなく違反にな
るのではないかと、心配
しがちであります。

選挙は、総ての国民(有
権者)が直接政治に参加
する唯一つの機会であり
ます。これに無関心であ
ったとするならば、自か
らの生活がいかになろうと、後になって文句はいえないこ
とになるわけです。

個人、個人の力は小さくても、一人、一人の言葉や行動が結
集されたときには、大きな力となり、世論になり、自からの代
表として、政治の中心において、より強力な政治を行なわせる
ことができるのであります。そこで、日常どんなことをしたら
よいのか、考えてみたいと思います。

その一つは、選挙の告示前までは「投票を頼む」運動はでき
ません。しかし、後援会への加入を隣近所の人や、茶の間に出
入する人、出入の職人や商人、奥さんの懇意な方、親戚、知
人、友人、趣味仲間等々に依頼し、一人でも多く、後援会の会
員になってもらう運動があります。

このことは、他のいろいろな活動方法を考えるより簡単であ
り、かつ大切なことであります。

特に、同窓会員の皆様には、率先して、強力に推進してい
ただくよう、切にお願い申し上げます。

東歯同窓会 鹿島俊雄後援会

本部新役員きままる

井上副会長の会長就任と、大井副会長のご逝去にともなう副会長二名の欠員補充、木村哲男理事の辞任による理事一名の補充については、副会長に斉藤静三、高橋初太郎の両君が、常任理事には高橋重雄君が就任されることになった。また、一部担当の配置がえが行なわれた。



副会長(新任)
斉藤 静三
昭和四年卒
(群馬県)



副会長(新任)
高橋初太郎
昭和四年卒
(東京都)



常任理事(新任)
高橋 重雄
昭和三十三年卒
(母校理工教室)



監事(新任)
山本 糧三
昭和三年卒
(東京都)

担当

〔総務〕 高木 健吉、安嶋 宜忠
福岡 明、津島 秀雄
〔会計〕 高木圭二郎、坂登 輝夫

〔共済〕 林 武夫、佐藤 貞勝
並木 俊雄

〔渉外〕 高橋初太郎、長岡 寛伯
山崎 文男

〔学術〕 木村吉太郎、山本 為之
〔広報〕 渡辺富士夫、高橋 重雄
〔鹿島俊雄後援会長〕 斉藤静三

なお、清藤志郎理事は、都歯会長の職に専念されるため、とくに担当を課さないことになった。

〔理事〕 九津見 侃(北海道)
高田 直秀(東北)
小池 光雄(関東・新任)

滝 義胤(東海)
加藤 敏行(北陸)
長坂 健一(近畿)

藤井 正毅(中国)
正岡 健夫(四国)
野上 順平(九州)

〔監事〕 大塚豊美、山本糧三

事務局人事

有江晴美、久保田和子両人が退職され、事務員一名の増員と併せてつぎの三名が四月より、本会の事務をとることになった。

原 徹 事務長



(新任)
今井千枝子
(庶務担当)

清藤志郎理事、東京都歯会長に就任



(新任)
小崎 生恵
(広報担当)



(新任)
望月 博子
(会計担当)

御礼

このたびの、東京都歯科医師会の会長選挙に際し、母校同窓会の推薦を得て、若輩をも顧みず立候補いたしましたところ、本校出身代議員の満票を頂戴いたし、当選の榮譽をえることができました。

これ偏に、代議員各位の御支援の露であり、また支部長ならびに、支部役員諸賢の日夜をわかつた御活動のたまものと、ふかく肝に銘じ、感謝の念を禁じ得ません。

私にたまわりました物心両面にわたる御支援に対し本紙上をかり厚く御礼申し上げます。

昭和四十六年三月二十日
東歯大同窓会長

井上 真
選挙対策委員長

森田 信一
清藤 志郎

昭和四十六年度

学術事業計画きままる

▽五月 金曜セミナー

「海外の研修会に参加する方々のために」

講師 羽賀 通夫教授

▽六月 講演会

「歯科と公害」

講師 上田 喜一教授

▽七月 夏期講習会

○反対咬合の診査と処置

日時 七月十二日(月)―十四日(水) 三日間

○部分的な歯牙欠如症例に対する診療計画

日時 七月十五日(木)―十七日(土) 三日間

▽八月 日曜セミナー

「アポイントメントの問題点」

講師 織家 勝先生

日時 八月八日(日)午前十時―午後四時
定員 三十名 会費 一万円

▽九月 金曜セミナー

「オーラルメイジン」

講師 加藤倉三教授

日時 九月十七日(金)

▽十月 日曜セミナー

「小児の治療」

小児歯科と矯正との両面から総合的な観点から考えた
小児の治療について 日時 未定

▽十一月 総会 講演会

夏期講習会

今年度夏期講習会は一段と内容を充実させ補綴、矯正の二科目について次の要領で行ないます。

〔矯正〕

「反対咬合の診査と処置」

講師 山本義茂教授・瀬端正之助教授・西口定彦助教授
他教室員若干名

日時 七月十二日(火)―十四日(水)三日間 午前九時―午後四時
場所 東都歯科大学 受講料 三万円 定員 十五名

〔補綴〕

「部分的な歯牙欠如症例に対する診療計画」

講師 鶴養 弘教授・羽賀通夫教授・関根 弘教授
他教室員若干名

〔内容〕

歯列のなかに部分的に歯牙を喪失したいくつかの症例を選び、口腔内外の諸条件とくに臨床診査所見、スタディ・モデル、X線写真、患者の通院あるいは経済的条件等のプランニングに必要な条件を設定して、トラウン・ブリッジおよびパーシナル・デンチャーを中心とした修復処置の診療計画について、講義、示説ならびに受講者の演習、討論等を総合的に行なう。また、審美的条件や咀嚼・発音の条件等を改善すべき症例や総義歯への移行の問題についても触れる予定である。なお、症例の資料は大学で準備するが受講者からの資料提供も歓迎する。

日時 七月十五日―十七日 三日間 午前九時―午後四時
場所 東京歯科大学 受講料 三万円 定員 二十名
受講希望者は五月三十一日までに同窓会に申込み下さい。

ご報告

本学創立八十周年並びに血脇守之助先生生誕百年の記念事業もその大部分を無事終了いたしました。がこれ一重に各位の御支援御協力の賜と厚く御礼申し上げます。

しかし、なお高山紀斉先生生誕の地における胸像の建立など一部の事業については次年度に亘るものもありますので、現在までに実施いたしました記念行事並びに事業についてとり敢えず中間報告を申し上げ御諒承を得たいと存じます。

今後また何かと御協力いただくことも多いと存じますが右の次第御礼を兼ね御報告まで申し上げます。

(同窓生五〇五名、招待者三十六名)
主なる行事

- (1) 記念式式辞 石河理事長
- (2) 永年勤続者表彰 一一四名
内訳 教員 七十七名
職員 三十七名
- (3) 法人関係功労者表彰 五十七名

(一) 物故教職員、同窓会員慰霊祭

- 物故者 三二四五柱
- 祭文 杉山学長
- 墓参報告 杉山学長
- 献花 理事 長
- 同窓会長 父兄会長
- 学生代表 遺族代表

(二) 血脇守之助先生生誕百年記念式典

- (1) 式典
式辞 井上同窓会長代理
- (2) 伝記編纂報告 関根編纂委員長
- (3) 謝恩碑敷地整備報告 北村同整備委員長

(三) 記念講演

- 演題 東京歯科大学の今昔
- 演者 今田 見信

(四) 祝宴

- 実施日 昭和四十五年十一月八日十七時〜二十時
- 場所 椿山荘(文京区)
- 参加者 五四七名
- 記念学会

実施日 昭和四十五年十一月六日、七日、

- 場所 専門課程第三、第四教室
- 演題 学会発表 六十三
- シンポジウム 一
- 特別講演 一
- 宿題発表 一
- 展示 組織病理実習室
- 歯科学報特集号発行 (四十六年二月発行予定)

(一) 血脇守之助先生遺品、遺墨展

- 実施日 昭和四十五年十一月六日〜八日
- 場所 専門課程第一教室
- 展示点数 二〇〇点

(二) 学生会の集い

- (1) 展示、映画クラブ発表 十月三十一日〜十一月一日 (大学ホール、第一、第二教室、第一実習室、微生物、組織実習室)
- (2) 学生の集い 十一月二日(共立講堂)
- (3) 展示 十一月三日セミナー・シンポジウム(第二、第三、第四教室)

(三) 運動会 十一月四日 (進学課程グラウンド)

- (1) 表彰状及び金一封 (永年勤続者に贈呈) 一一四名
- (2) 記念バナー(参加者及び教職員学生全員に贈呈) 二六八〇枚
- (3) 感謝状及び風呂敷(法人功勞者に贈呈)

(四) 記念事業

- (一) 血脇守之助先生伝記編纂 委員会て目下編纂中(四十六年十一月頃発行予定)
- (二) 創立八十周年記念誌編纂 委員会て目下編纂中(四十六年十一月頃発行予定)
- (三) 高山紀斉先生の記念碑の建設 (岡山市内、岡山県歯科医師会館内予定)
- (四) 当初記念碑が計画されたが胸像に決定し製作を今里龍生氏に依頼、四十六年二月末頃完成予定。
- (五) 安置、除幕式 岡山県歯科医師会館が建設中の関係で同館完成後の予定(四十六年八月末頃の予定)
- (六) 血脇守之助先生謝恩碑敷地の整備。 千葉県我孫子市所在の謝恩碑敷地を次の如く整備した。(1) 囲の塀をコンクリートブロックで新設
- (七) 内部土盛の上参道に砂利を敷き両側に庭木植樹在来樹木の手入れ
- (八) 施行業者 木田建業株式会社
- (九) 完工 昭和四十五年十月三十一日
- (十) 歯学基礎研究総合施設の計画 記念事業として上記委員会が任命され松宮委員長を中心に三回の委員会を開催討議研究中。

会計報告

本事業に要した歳入、歳出の経理状況(中間)は別紙(省略)：編纂部)のとおりで残額二〇〇一、〇四七円となっているが、未だ完結を見ないもの左記のとおりである。

記念行事関係

学會費 二五〇、〇〇〇 (歯科学報特集号分)

記念事業関係

血脇先生伝記編纂の運営費
創立八十周年記念誌編纂
高山紀斉先生記念碑の建設費
歯学基礎研究総合施設計画の運営費

本部短信

2月10日 医政第二部総会

2月13日 福島県支部総会

2月14日 吉峰登元支部長葬儀

2月16日 大井副会長葬儀

2月17日 六歯科大学同窓連合会

2月18日 井上会長・清藤・長岡両理事出席

2月20日 竹内前日歯会長葬儀

2月21日 井上会長葬儀

2月21日 秋田県支部総会

2月21日 渡辺理事出張

2月21日 日曜セミナー(補綴)

津島理事担当

(次頁につづく)

第七十六回

卒業式挙行される

新卒業生百四十七名

東京歯科大学第七十六回卒業証書授与式は恒例に従い三月二十五日(木)午後一時三十分より母校ホールにおいて挙行された。

関根弘学生部長の司会により国歌斉唱、ついで関根学監より学事報告が行なわれた。本学に在籍する学生は進学課程三百五十四名、専門課程六百六十六名、計千二十名である。これらの学生の教育にあつては、これらの学生の教育として教授四十九名、助教授三十六名、講師五十六名、助手八十五名、合計二百二十六名であり、ほかに非常勤講師百十二名である。

第七十六回卒業証書授与式にお



いて卒業証書を授与されるものは、前記在籍者のうち百四十七名となつてゐる。これを大学設置以来の卒業生と合すると二千五百五十名、専門学校設置以来の卒業生と合すると八千五百六十三名となる。なお高山歯科学院創立以来の卒業生を通算すると八千八百五十四名となることである。

卒業生は一人一人に杉山学長より卒業証書が授与された、ついで卒業生に対して、温情あふるる告辞があつた。石河理事長(入江理事代理)井上同窓会長、がそれぞれ祝辞を述べられた。在学生代表の送辞、卒業生代表の答辞があり、校歌を合唱して終了した。

式後、ひきつゞき記念品の贈呈式が行なわれた。井上同窓会長から新同窓会全員に同窓会バッジと金一封、また、父兄会より大久保会長が代表して記念品を贈呈した。さらに卒業生は卒業記念として映写機二機を寄贈した。

ひきつゞき第一教室において全教授と父兄との懇談会が行なわれた。さらに午後五時三十分より、帝国ホテルにおいて謝恩会が開催され、卒業生、教職員、父兄共々在学の六年間をふりかえり終始なごやかに歓談した。

去年三月、法人理事会および評議員会で万場一致の賛成をもって東京歯科大学奨学金制度が発足した。

東京歯科大学奨学金の制度について

この制度については、現在まだ一部の同窓諸氏だけがご存じであるにすぎないようであるので、ここにその概要を申し上げてみたいと思う。

この制度の目的は、学業、人物ともすぐれた本学の学生、大学院研究科生ならびに外国人留學生で、就学の途中学資に困難な事情を生じた者に対して学資金を貸与し、優秀な人材の育成に資することにある。

この基金は、法人からの繰入れ金および大学内外からの指定寄附金からなり、毎年これから生ずる果実によって運用されることになつてゐる。

奨学金を貸与される者は、毎年保証人の連署をもつて出願した学生らの中から、学長の委嘱による奨学生審査委員会が候補者を選び、学長がこれを決定する。貸与される金額は、つぎのとおりである。

一般学生 月額 五、〇〇〇円
大学院研究科生 月額 一〇、〇〇〇円

外国人留學生 学業および在学のために必要な経費

貸与期間は、正規の最短修業年限で、奨学生は毎年選定されるが、重ねて選定されることもある。

貸与された奨学金は、原則として交付の終了後六カ月を経てから六年以内に返還されることになつてゐるが、災害、疾病、国外留学その他止むを得ない事情があるときは、願ひ出によつて返還を猶予されることも定められてゐる。

また、学生が卒業後あるいは大学院研究科を終了後、一定期間以上本学の教員として教育または研究に従事した場合、返還を免除されることのある特典も定められてゐる。

現在のところ、またこの基金の積み立て額は、法人よりの繰入れ金五〇〇万円のほか、一昨年米國パークレー市で逝去された林幸茂氏(元同窓)の遺志により三〇〇未亡人から寄附された金三、〇〇〇ドルにすぎない。そしてこの全額から生ずる果実は、現在この奨学金の貸与を希望する多くの学生らに対してその恩恵に浴させるためには、余りにも不十分であることは、申し上げるまでもない。

同窓ならびに父兄各位の深いご理解と絶大な協賛とを切に願ひして止まないしだいである。

(松宮誠一)

2月28日 全体理事会
3月7日 岡山県支部総会
高木副会長・坂登理事出張

3月8日 都歯会長選挙対策委員会
3月9日 日歯役員代議員懇談会
3月12日 都歯会長選挙対策委員会

3月13日 山梨県支部総会
井上会長出張
3月17日 北多摩支部総会
長岡理事出張

3月18日 都歯会長選挙対策委員会
3月21日 日曜セミナー
木村理事担当

3月23日 渋谷区支部総会
安嶋理事出席
3月24日 全体理事会
3月25日 卒業式

3月30日 学術委員会
◇叙位・叙勲追贈
従五位勲四等瑞宝章
故長内岩三郎殿

◇支部長交替
麻布赤坂支部2月23日付
17児玉良知

◇地震火災罹災会員
地震新潟県支部
2月26日壁全壊41丸田至三会員
火災旭川支部
3月16日診療所火災

大井合関三会員

金属床総義歯を作る際の注意

鶴 養 弘

最近金属床総義歯の作られる率が増えたようであるが、それに伴って、色々と思うように行かないことが起り、困っているケースが急に増加したように思われる。

術者、患者共に最も困るケースは、新しく作った金属床上顎総義歯が維持不良で落ち易く、折角作っても使用されず、何年か前にそれほど費用も日数も掛けずに作ったレジン床義歯の方が良いということになった場合である。この場合、前のレジン床義歯が頻繁に割れるなどの理由で、患者からも金属床義歯の製作を希望された場合ならまだよいが、使用している義歯が顎の吸収によって多少維持が悪くなって新調を希望して来たときに、「顎の状態がもう安定したから、金属床にした方が良い。」などと術者側から薦めた場合は非常に困る。特に前の義歯が他の術者によって作られた場合は、「前の先生は、顎の形がまだ安定しない時にお願ひしても、数年間気持ちよく使用できる義歯を作って呉れた。今度の義歯は顎が安定したというのに最初から使用できない。」などと言われ、後から色々とうるましい説明をしても、言い訳にしかとって貰えないことが多い。結局は、患者によくしてやろうと思って、金属床を苦勞して作って、却ってその技術を疑われ、非常に後味の悪いことになる。したがって金属床総義歯を作る時は、ケースを選択し、その利点も欠点も予めよく説明したのち、製作に着手する必要がある。

金属床の利点

- 1) 強靱であること。したがって床を薄くすることができるので、口腔内に装着した場合の異物感が少なく、発音機態の回復にも有利である。
- 2) 口腔内で化学的变化を起さない。通常、不銹合金または金合金で作られるから、口腔内で薬品、酸、アルカリ、唾液などに全く安定している。
- 3) 衛生的である。金属はレジンのように吸水性がないから臭がしみ込まず、口内炎の発生率も少なく、歯垢、歯石の沈着も起りにくいで、清潔に保つことができる。
- 4) 温度的な感覚を遮断しない。したがって冷たい食品や熱い食品を食べるとき、総合的な味を阻害しない。

金属床の欠点

- 1) 調整・修理が簡単に行えない。義歯装着後削除する必要が生じた場合は、硬いため容易に行なえない。また追加修理をする必要が生じた場合もレジンに比し非常に煩雑である。
- 2) 重量が大である。特に金合金の場合はこの欠点が大きくなる。
- 3) 製作に手数が掛かる。
- 4) 高価である。

つぎに最初に挙げた。義歯の維持不良について述べる。義歯の維持安定の悪い場合は次のようなタイプがある。

1) 義歯を口腔に装着し、手を離れた途端に上顎義歯が落ちてくる。2) 患者が頬舌を動かすと義歯の維持を損なう。3) 咬合して開口すると義歯の維持が破れる。

1) は安静時の粘膜面と床面の接触が密接に行なわれず、床の周縁が粘膜に密接しない場合に生じる。

2) は床の周縁が小帯などの可動組織の上にまで延長されている場合である。

3) は a) 咬合採得が適当でないか、患者の咬合癖がある場合に、その調節が不十分のため、咬合することによって義歯が移動し、床の接着を失なう場合。b) 骨口蓋隆起の緩衝が不十分である場合。c) 疼痛のため咬合を故意に偏位させる場合などに起る。

3) の a) の場合は金属床総義歯に限ったことではないが、他の場合は金属床の欠点1)がクローズアップされる。

特に3)の b) の場合、骨口蓋隆起部の緩衝を床の内面を削って行なうことは、圧印床の場合は行なえないから、骨口蓋隆起のある症例は、予め十分に緩衝しておくか、それでも心配な場合は鋳造床にして、更に試行錯誤することができる余地を残して置く方が安心である。

3) の c) や2) の場合に、削るのが容易でなく、また床縁を削去することによって、その部で周縁閉鎖を計っていた場合は、義歯の維持が不良になるから、義歯の周縁後縁の決定には特に注意しなければならない。

1) の場合は勿論レジン床のように簡単にリベースして調節することができない。

したがって金属床義歯製作に際しては欠点1)を常に念頭に置く必要がある。粘膜のクッションが大きく、しかも部位的に差の大きい症例の場合は、レジン床にした方が安全である。しかしそれでも金属床にしたい場合は、特に印象に注意する。加圧印象が理想的に行なわれた場合は、圧印床で作っても支障がないが、そうでない場合や無圧印象の場合は鋳造床にした方がよい。鋳造床の場合は歯槽部もレジンにしてリベースも行なうことができるから、抜歯窩の形態がまだすっかりは落付かない時期にも、義歯を製作することができる。

最も注意しなければならないのは、床の後縁の決定と後堤法を適切に行なうことである。

床の後縁の決定はAh-線を基準とする方が、前の義歯がレジン床の場合は、それに即時重合レジンを追加したり削ったりして修正し、最も良い位置を握んで新義歯に採用する。前の義歯が金属床の場合は基礎床で行なう。

(補綴学教室教授)

大井先生のご逝去を悼む

長 尾 喜 景

大井先生が心臓発作のため、市川病院に入院されたのは昨年の八月十二日と記憶しております。当初は極めて重態であるとのことですが、私共も心配いたしておりました。その後次第に病状も回復に向かいつつあって、この調子でゆけば、三月頃には退院できるのではないかと希望的観測もなされていくのがあって、門下生一同陰ながら喜んでいた次第でありました。しかるに一月二十七日に脳卒中のため急逝されたとの報に接し、私共は驚きのため呆然となり、やがて深い悲しみの中に引き込まれました。

大井先生は大正十二年三月、東京歯科医専を卒業以来、実に五十年に近い一生を母校にささげ、その発展に寄与されました。教育、研究、診療に活躍されたことはもちろんであります。このほか東歯大病院長、市川病院長、法人理事として母校の管理経営に参画され、さらに同窓会や日本歯科医学会にも大きな足跡を残されました。先生は母校を今日の隆盛に導びかれた功労者の一人であると思います。

口腔外科領域における先生の業績は広い範囲に及んでおりますが、その中でも口腔外科疾患と血液像との関係を追求された一連の研究業績は特に意義深いものと考へます。現在では血液像の検査はルーチンの検査として日常行なわれておりますが、四十年前も前に、これを歯科臨床に結びつけようとする努力された頃は、いわば開拓者としての大きな苦勞があったと存じます。

大井先生が亡くなられた現在、私共が静かに先生を偲ぶ時、最も大きく浮び上るのは、先生のお人柄であります。先生は温厚、誠実で人情味の誠に豊かな方で、多くの人々から信頼され、尊敬され、また親しまれました。この先生のお人柄の一部は生まれつき持つておられたものでありましようが、一部は先生が若い頃経験された二つの大きな苦勞によって、一層はぐくまれたものと信じます。

そのご苦勞の第一は経済的に恵まれなかったことでありましよう。先生は郷里の高等小学校を卒業後、家事の手伝いをしながら私塾に一年半ほど通われ、何とかして上級学校に進みたいとの念願から上京され、お姉様の献身的なご援助により中学校に編入、さらに進んで母校を卒業することができました。しかし貧困との苦闘はその後も続きました。先生は「貧乏が続くと次第に貧乏を楽しむことを覚

えた」と述べておられます。第二のご苦勞は病氣であります。母校卒業後五年目の昭和三年三月、先生は病魔のため倒れられました。当時「肺結核と診断されることは、患者にとって大きなショックであったに違いありません。この時から先生の闘病生活が始まりました。先生は「病氣に罹ったおかげで感謝する気持を覚えた。また健康であることが如何に有難いことであるかを知った」と述べておられます。

貧困と病氣。この二つに攻められました。先生は何とか頑張つて、これを取り切られました。この精神力と体験が先生のお人柄に大きな影響を与えたものと思われます。

また、先生は三河出身のため、徳川家康を尊敬され「人の一生は重き荷を負うて遠き道を行くが如し」という家康の座右の銘を愛誦し、実行しておられました。

戦後、歯科教育を大学に昇格するに当り、母校の建設資金を得るため全国の同窓校友に呼びかけ募金を行なった際に、先生はその中心となつて、大いに活躍されました。大井先生が行かれると、不思議に募金成績が良かったということであります。これも先生の御人柄によるものと思われます。このような偉大な御人柄の先生を失つたことは私共門下生一同にとつて、誠に不幸なことであります。しかし何時までも悲しんではかりはおられません。今はただ先生の遺された数々の教訓を守り、微力ながら一致協力して、母校ならびに口腔外科学教室の発展のため努力する所存であります。大井清先生、私共門下生一同は先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。(二月十六日の大学葬における門下生代表の長尾教授の弔辞より……編集部)

◇ 逝去會員

- 3 大松村磊堂 一三 福井県
 - 33 大津 栄 一三 神奈川県
 - 12 大井 清 一七 大 学
 - 6 大志田晴海 一 千葉県
 - 6 大長内岩七郎 一 青森県
 - 12 瀬谷 巖 二 神奈川県
 - 14 布川武夫 二 愛媛県
 - 2 福満禎蔵 一 鹿兒島県
 - 5 工藤 要 二 青森県
 - 15 吉峰 登 二 渋谷区
 - 推渡辺 一郎 三 長崎県
 - 4 芳陵 暹 一 長崎県
 - 13 大久保文公 二 長崎県
 - 8 大藤塚間琴 一 茨城県
 - 7 井沢春勇 二 神奈川県
 - 9 大町田 二男 一 愛知県
 - 推町田 幾久 一 練馬区
 - 6 大西延治 一 杉並区
 - 3 大野鴨福治 一 鳥取県
- 謹んで哀悼の意を表します。

秋田支部

秋田より暫らく振りの支部便りをお届け致します。四十六年一月より新年度となり、二月二十日、二十一日の二日間におたり母校より渡辺富士夫、佐藤徹一郎の両先生をお迎えして、能代地区の設営で、森岳温泉にて支部総会が開かれました。

山内支部長の挨拶の、後執行部の上提した案件が満場一致で承されました。続いて佐藤徹一郎先生の「歯周病とその新しい考え方」というユニークな講演を三時間にわたり勉強しました。引続いて、渡辺先生より、同窓会本部の近況報告が行われ、一同記念写真の後懇親会に移り、大館の神成先生の迷(マ)司会で第一日を終りました。

二十一日は朝九時より渡辺先生の「即処のポイント」と題して二台のスライドを用い簡明に講義されその後、アンデス紀行「インカの遺跡とアンデス登山」が先生の巧みなナレーションと共に、きれいな画面に映し出され、会員一同の歎息の裡に十一時間閉会となりました。なおレクリエーションとしてのスキーは、暖冬のいたづらで、雪が殆どなく残

支部のうごき

念でしたが中止と相成りました。

(敬称略)
出席者 野呂田正一、五味武一、駒橋典夫、小林義徳、武田一、佐藤俊男、鈴木滋、山田寛、高橋是崇、野呂田邦輔、山本隆一、中道嘉門、神成勝美、山中秀明、中村実、沢口晃、太田晃、堀部清元、三浦保秀、高橋昭一、山内馨児、八幡真一、中村勤、山内静、金内光夫、梅津了



クラス会だより

更始会

昭和三年卒

毎年全国各地にいる級友をたより地方へ旅行して、級会を開き旧交を温めていた更始会も、数年前より台湾行を考えていた所、昨春蘇茂欽君が来日、東京で臨時級会開催した。その折出た台湾行の話が実を結び、同行三十二名の団体で去る三月十八日出発三泊四日の旅行となった。

台北飛行場には張深鑑君御一家及び蘇我欽君とが高級遊覧車を仕立て、出迎えてくれ、台北市内見物、楓林小館にて昼食。海岸線を通り、台中へと向う。夜は男子は酒家で張、蘇茂両君の御招待。女房達は張君の御令閨の御案内にて別の飯店にて丁寧なる御接待を受く。誠に至れり尽せりの御もてなしに一同感謝す。翌十九日は省議會、省政府を見学、日月潭に至りその湖畔にて昼食。徳化社(審社)を見物、教師会館見学、途中台中市で開業されている張君の家に一同お茶の御接待をうける。それより今度は往路と違う山中のドライブウェイを通り有名なる台北の北投温泉へと向う。

翌二十日は故宮博物館を見学。一同中国の国宝の粹に目を見はり、あの戦乱の中よくもそれだけの宝物を北京より移したものと感激した。それより陽明山公園を見て野柳なる奇岩怪石の海岸に遊び台北は永安大飯店に一泊。廿一日は指南宮の豪華さに驚き、孔子廟に参拝、帰国の途についたものだが途中張君御一家の皆様、蘇茂欽君のほんとは言葉では言い表わせない御もてなし、御配慮、各人の土産物の買入れ等、張君の二人の御令



嬢、それぞれ立派な医者に嫁がれているにも不関その御主人ともども夜おそくまでその交渉に当って下さる等、ほんとに涙の出る様な御もてなしに、たとえ国籍は違っても同窓の有難さがしみじみと感じられ、別れの御挨拶も絶句のありさま。一同感謝感激に目をうるませてお別れした。

台湾におられる御両君の御繁栄と末長く御健康である事を祈って報告を終わります。

参加者 (同伴組) 三浦和雄、西山義雄、渡辺元広、鈴木武雄、大沢和雄、黒田正智、鹿島健太郎、秋山不二男、岡本公平、麻生多吉、清水 明、千野純次

(単独参加) 大月俊夫、江崎 清松村寛現、成毛 寿、湯原与一、斯波行久、田沢二郎、曾田真一
なお、五月廿一日より行方本年
度総会の山陰旅行は、目下四十六名の方々の参加申込みあり、もっとも皆様の御参加を希望致します。

堅久会

昭和十六年卒

本年の地方懇親会は、四国徳島で阿波踊見学を兼ね昨年より募集した所、七十三名の参加を得ました。

た。地元石丸君を始め大阪の諸君にも色々とお世話を受けた。最終的には四月中旬、大阪で東京の幹事を混えて計画を決定致しますが申込み者には往復乗物アンケートを出しますので御協力下さい。

会員の瀬谷君が二月三日死亡致しました。つつしんで哀悼の意を表します。私共も健康に留意しましょう。去る、二月十六日の大井先生の華儀に際しまして、堅久会として御盛花を御霊前に供えて学生時代より今日迄色々とお世話になりました先生の御恩にお報い致しました。

先般幹事の小川涉君がハワイで立川君と面会され、彼の住所が米国サンフランシスコ、ローマインストリート一〇番で活躍しているそうです。また、台湾の張春輝君が十月頃まで母校に留学されており、

名簿作成のため一月アンケートを出しましたが未だ何んの返事も無い人がおりますが、明確な住所をお知らせ下さい。三月十四日幹事会を開きましたが会費未納の方は成るべく早く会計の石井君迄御送金下さる様お願い致します。

(前原記)

発行所 東京都千代田区三崎町二丁目九番十八号
東京齒科大学 同窓会
電話東京(二六)三三二(代)振替七九〇四番
編集兼発行人 渡辺 富士夫